

第 24 期日本学術会議 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会
第一回分科会議事録

日時：平成30年1月31日(水) 10:00-12:00

場所：日本学術会議5階会議室

出席者：岡、駒宮、柴田、杉立、関口、永江、横山、山崎、延與、市川、浅井、相原、
野尻、田村

Skype 出席：宇川、村山、中畑

欠席：大塚、櫻井、山内

はじめに素核分科会世話人の田村委員から今期の学術会議の体制について説明があり、その後以下の議題について議論した。

1. 委員長の選出、副委員長・幹事の決定

委員長：田村委員、副委員長：浅井委員、幹事：野尻委員、延与委員が推薦され承認された。

2. 今期の活動方針について

田村委員長から、前回議事録(資料1,2)に基づき、23期までの活動(マスタープランへの対応等)と送り事項についての説明があった。今期の活動としては、引き続き大型施設の問題を議論すること、マスタープラン改定の動きがあれば対応すること、などが指摘された。

3. 大型施設に関するシンポジウム開催について

資料3に基づき、23期での経緯について田村委員長より以下の報告があった。
「大型施設の運営費の問題について、記録の発出、シンポジウム開催などを物理学委員会に提案したが認められなかった。一方、天文宇宙分科会で「大型施設と大学との位置づけ」についての議論が始まり、分科会主催のシンポジウムの開催が予定されている。素核分科会でも宇宙天文との連携を見据えて、分科会主催のシンポジウム開催を検討することとなった。」

以上を踏まえ、シンポジウムについて田村委員長より提案があり議論を行った。様々な議論ののち、学術的価値のアピールを主目的とした公開シンポジウムの開催が承認された。シンポジウムでは、学術としてのすばらしさ、イノベーションへの貢献を中心に、大学と研究機関の関係や教育との関係、諸外国の状況などを盛り込む方向で検討することとし、具体的な内容については、今後、分科会内での意見を聞きつつ、委員長・副委員長・幹事+関口委員が詰めることとなった。

4. 物理学委員会の物理教育研究WG設立について

WG の設置について説明があり、WG 委員として素核分科会から岡委員と駒宮委員を推薦することとした。

5. その他

前回の素核分科会議事録はメール回覧ののち委員長一任で決定済、との説明があった。

IUPUP 分科会について野尻委員より報告があった。関連して、素核分野も関係する世界周期表年への学術会議としての対応について、また、標準単位系変更に関する学術会議主催シンポジウムの開催などの可能性について説明があった。

資料 1 : 前回の素核分科会議事録

資料 2 : 前回の物理学委員会議事要旨

資料 3 : シンポジウム開催について

資料 4 : 物理学委員会・物理教育研究 WG 設立案

資料 5 : 物一分科会・物理教育研究 WG 報告